

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームまどか 1号棟	評価実施年月日	平成21年9月19日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年9月19日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	玄関前や廊下に掲示し、出勤時に復唱している。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時やミーティング等で、ペーパーにて周知している。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には契約時に理念について文章にて説明している。又、面会や見学者には掲示を見て頂き説明している。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者の知人が近隣に住んでおり面会がある。又、外気浴の際、気軽に声をかけあっている。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に所属しており、町内みこしの際は、多数の子どもや大人の方々がまどかを訪問して頂きました。又、夕張夏祭り等の行事にも参加しています。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	本体でお年寄りホットラインを開催し、いつでも相談できる。	○	認知症の理解を深めて頂くため、これからも地域の行事に積極的に参加して行きたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>毎年、外部評価の改善すべき点について取り組んでいる。</p>		
<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>町内会会長、消防署、市職員、民生委員、近隣住民、利用者家族、理事長、常務理事で構成され、2ヶ月に一回開催し、色々な意見や助言を頂き、日常の業務の取組みに活かしている。</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市とは、入所見学や新規受け入れ等で連絡を密にしている。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者研修、ケアマネ研修、スタッフ研修等で学習している。</p>		
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者研修、ケアマネ研修、スタッフ研修等で学習している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に説明し、同意を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情等はありません。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月利用者の近況について郵送している。又、年3回お便りを発送している。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情等はありません。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は個別に職員と話し、問題点や提案、意見を聞いている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務変更、時間外等で調節している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>2ユニットを全職員が対応し、馴染みの関係が出来ている。</p>	○	<p>各職員が情報を共有するよう申し送り事項に細かい事でも記入している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本体の新人研修や外部研修に参加し、資質向上に努めている。又、人事考査の中で目標設定シートがあり、1年に1回評価している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	毎月管理者は市のケアマネ連絡会議に出席し、市の担当者、各事業者と情報交換している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のストレスは、個人によって違うので、十分に話を聞き、人間関係の把握に努めている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	人事考査にて評価し、向上心を持って仕事ができる配慮をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者に本人・家族と面接し、アセスメントを行い、職員で統一したサービスができるよう努めています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者に本人・家族と面接し、アセスメントを行い、職員で統一したサービスができるよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者に本人・家族と面接し、アセスメントを行い、職員で統一したサービスができるよう努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族に見学して頂き、サービス利用について文章と口頭にて説明しています。事前にアセスメントし、本人の理解を深め安心感を持って頂く。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人と話し合い、一方的なケアにならないように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と話し合い、できるだけ家族と同じ気持ちで接するようにしている。	○	美容室、庭いじり、お手玉、大人の塗り絵等それまでの生活をできるだけいぞくできるように努めています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	毎月利用者の近況について郵送している。又、面会時にも近況についてお話している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	できるだけ本人のそれまでの生活が継続できるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の人間関係を把握し、関わりを持てるよう職員が働きかけている。	○	集団生活の中で馴染めず、孤立しないよう。職員が察知し、調整するよう努めています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者、家族に対して関係を断ち切ることはしていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話し合って把握している。意思表示困難な場合は家族と話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント表にまとめ、経過についてはケース記録に記載している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録、申し送り事項、業務管理日誌で把握に努める。又、サービス担当者会議を開催し、定期的にモニタリングをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケース記録、申し送り事項、業務管理日誌で把握に努める。又、サービス担当者会議を開催し、定期的にモニタリングをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケース記録、申し送り事項、業務管理日誌で把握に努める。又、サービス担当者会議を開催し、定期的にモニタリングをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録に記載し、見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況や要望に応えるよう外出支援など行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の必要性に応じて地域資源を活かす取り組みに努めている。	○	今後は市内の幼稚園、保育園、小学校、中学校等の教育機関の訪問、実習の受け入れ、地域ボランティアの交流を積極的に関わっていききたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の必要性に応じて地域資源を活かす取り組みに努めている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の必要性に応じて地域資源を活かす取り組みに努めている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	夕張市立診療所の訪問診療が月2回あり、体調に変化が見られた時は、訪問看護師に連絡できる24時間オンコール体制となっている。		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	夕張市立診療所の訪問診療が月2回あり、随時相談している。		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	事業所に看護師を配置し、健康管理に努めている。		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	主治医と随時情報交換に努めている。		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	本体の方針として重度化や終末期に関しては特別養護老人ホームに入所しており、契約時に本人、家族から同意を得ている。		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	本体の方針として重度化や終末期に関しては特別養護老人ホームに入所しており、契約時に本人、家族から同意を得ていることから現在は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	居宅へ移った事例はないが、住み替えがある場合。他の事業所と協力するよう努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	就業する前に本体で誓約書に署名、捺印し個人情報の保護やプライバシーに配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意思表示が困難な方であっても、表情からその気持ちを読み取るようにケアしています。	○	今後も本人が意思決定する場面をコーディネートしていきたいと思います。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課を決めず、できるだけ一人ひとりのペースに合った生活をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	それぞれの生活パターンに合わせた身だしなみやおしゃれをサポートしています。理容、美容は近隣なら送迎介助を行っている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むき、食器拭き等利用者と共に行い、食事は職員も一緒に会話を交えて食事しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日、お茶やおやつがある。酒、たばこをたしなむ利用者はいない。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望、体調面に配慮している。個別マンツーマン対応。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の離床促進、個々の状況を把握し対応したケアを行っている。	○	夜間寝つけない時は、温かい飲み物の提供、じっくりお話を聴くようにしています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人、家族と話し合い、個々の状況に応じたケアに努めている。(買い物、清掃、洗濯等)		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小額のお小遣いを希望があれば持って頂いている。家族には紛失の可能性のあることを説明している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は個々の状況により、できるだけ外にでる機会を多く持つようしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人、家族と話し合い、出来る限り実現できるように努めている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々に応じて通信の利用の介助を行っている。	○	年3回のお便りの際、本人にコメントを書いてもらい、家族に郵送することに取り組んでいます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂いている。	○	家族の面会が多く、仕事帰りでも気軽に寄って頂いています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束の手引き」に沿ったケアに取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜勤体は職員が一人なので玄関は施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	業務管理日誌にて所在確認チェックしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に応じたケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	本体の事故防止マニュアルに沿ったケアをし、安全対策に取り組んでいます。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	本体での新人研修等や急変対応マニュアルをいつでも見やすい場所に配置し、事故対応に配慮している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回消防立会いや自主的による防火訓練を実施している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	契約時に起こりうるリスクについて説明、同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の異変を発見した場合、速やかに訪問看護師に連絡し、指示をもらっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	与薬状況については、申し送り事項に記載、ケース記録に用法や用量についてファイルしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食事、排泄チェックにより下痢、浣腸等の処置を行なっている。	○	浣腸に関しては、看護師勤務のみ施行している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている。	毎食前後、起床、就寝時に口腔ケアを行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状況を把握し、ケース記録や申し送りに記載している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決め があり、実行している(インフルエンザ、疥 癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年1回インフルエンザ予防接種を行なう、又、毎日手すり・台所・流し台とトイレ定時 に7回と毎週居室、床等ピューラックスにて消毒している。	○	洗面所に消毒液を置き、ペーパータオルを使用しています。秋から春に かけての乾燥の時期には消毒清掃を増やしています。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場として の台所、調理用具等の衛生管理を行い、 新鮮で安全な食材の使用と管理に努めて いる。	台所、調理器具、食器等は使用時、キッチンハイターで消毒している。食材は夏期 は毎日購入、必要があれば冷凍保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親し みやすく、安心して出入りができるように、 玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関回りは簡易塗舗装(ロードヒーティング)で穏やかな傾斜をつけている。外壁は 明るい色彩でわかりやすくなっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快 な音や光がないように配慮し、生活感や季 節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている。	一般家庭で使用している環境のしつらえをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者同志で居間、食堂等で談笑されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人、家族で部屋のレイアウトをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気システムがある。温度、湿度のチェックを毎日日誌に記入している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	形態別に対応した設備がある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	隼田助教授(北海道情報大学、情報メディア学部)の設計により、家庭的雰囲気をつくらずに、夜間等はスポットライトで導くようにしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	物干し場、水撒き、草取り等を行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者:本人、家族と話し合い、個々の意向に沿ったケアをしている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある:居間、食堂に常時職員がいて、利用者と一緒に過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者:個々の状況に沿ったケアをしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者:利用者とは接する機会を増やし、いつも明るい表情や姿が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②利用者の2/3くらい:本人から行きたいところを引き出し実現している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者:看護師を配置し、非常の健康管理に留意している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者:ケアプランに沿ったケアに努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族:契約時やその他相談に対して管理者が傾聴し対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに:利用者の知人や子どもみこしの訪問等があった。



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>②少しずつ増えている：各委員より、事業所に関する質問等により、提案や助言を頂いたり、地域との交流の協力の話し合いが行われ、理解が進んでいます。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が：問題を抱えた場合、職員は管理者に相談して改善するよう努めています。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が：利用者から聞き、おおむね満足しているとのこと。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が：家族から感謝の言葉を頂くことが多く、要望や問題等がある場合、職員は管理者に報告し、改善努力しています。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

日課等を決めず、できるだけ自由でゆったりとした生活が提供できるようなサービスに努めています。又、本体が特別養護老人ホームなため、重度になっても協力、連携体制があり、利用者の家族に安心と信頼を得ています。